

緊急時にも、日常的にも

日本は災害列島です。

災害はいつどこで起きるかわかりません。

災害時、多くの学校、公民館など地域の身近な施設は避難所になり、様々な方が避難してきます。

多くのことが混乱している中で、子どもたちにとって「安心」・「安全」な場、子どもたちの日常に近い場をどのように整えたらいいのか、どのようなことに気をつける必要があるかなど、普段から知っておくことが大切です。

また、緊急時のみならず、日常的な子どもの居場所づくりや子どもとの接し方などへも様々なヒントを与えてくれるものと考えています。

「子どもにやさしい空間」を設置するための6つの大切なこと

- ①子どもにとって安心・安全な環境であること
- ②子どもを受け入れ、支える環境であること
- ③地域の特性や文化、体制や対応力に基づいていること
- ④みんなが参加し、ともに作りあげていくこと
- ⑤さまざまな領域の活動や支援を提供すること
- ⑥誰にでも開かれていること

研修に参加した方々からの声

- グループワークを実際にやったことで、緊急時に動けると感じた。
- 緊急時に限らず、いつもの子どもとの関わりにも活かせる。
- 災害1週間では何もできなかった東日本大震災。最初からこのようなことを理解しているといないのでは全く違うと思う。



©UNICEF/2011/N.Imoto



©UNICEF/2011/R.Grehan

ガイドブックや研修に関する問い合わせ先(2016年現在)：

国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター

災害時こころの情報支援センター (CFS 担当)

〒187-8551 東京都小平市小川東町 4-1-1

E-mail: saigai_cfs@ncnp.go.jp

公益財団法人 日本ユニセフ協会

東日本大震災緊急支援本部 (CFS 担当)

〒108-8607 東京都港区高輪 4-6-12 ユニセフハウス

TEL:03-5789-2016

E-mail: jcuinfo@unicef.or.jp

「子どもにやさしい空間」 ガイドブックと研修のご紹介

避難所で、地域で、みんなができる
子どもたちの居場所づくり

災害はいつどこで起きるかわかりません。
あなたのまちで災害が起こったら？

普段、学校や保育園、幼稚園、子育ての場で
子どもたちとの接し方で
困っていることはありませんか？

子どもとの関わり方について
学びませんか？



「子どもにやさしい空間」とは？

災害や事故。

子どもたちは一瞬に「日常」という支えを失います。

「子どもにやさしい空間」は、不安や様々な危険に包まれる子どもたちが、安心して、安全に過ごせる「居場所」。様々な年齢の子どもに合った「遊び」や「学び」の場を提供する活動です。

国連児童基金：ユニセフ（本部：ニューヨーク）は、世界の緊急支援の現場で「子どもにやさしい空間」を設置することを促進するため、2009年に A Practical Guide for Developing Child Friendly Spaces というマニュアルを発行しました。

日本ユニセフ協会と災害時こころの情報支援センターは、この英文マニュアルから、東日本大震災の経験を盛り込んで、日本版「子どもにやさしい空間」ガイドブックを2013年に作成しました。

2015年4月からは、このガイドブックに基づいて研修プログラムを作成し、東日本大震災の被災地を始め、首都圏などでも研修を提供しています。



より詳しい情報やガイドブックのダウンロードはこちらから
<http://www.unicef.or.jp/cfs/>

研修プログラムの紹介

研修は、専門家による講義とグループワーク、ディスカッション形式の約3時間（簡易研修は1時間でも可能：応相談）のプログラムです。

第一部 「子どもにやさしい空間」とは？

「子どもにやさしい空間」映像紹介



どんな時に必要なの？なぜ必要なの？
どういうものなの？



6つの大切なこと

第二部 「子どもにやさしい空間」の実践

実践ステップ1 子どもたちの状況や周りの環境を把握しよう

実践ステップ2 どんな活動ができるか考えよう

実践ステップ3 場所や設備を考えよう

グループワーク
～「子どもにやさしい空間」をつくってみよう～

実践ステップ4 人材を確保し運営してみよう

実践ステップ5 活動を振り返り改善しよう

「子どもにやさしい空間」研修で学べること

- ①「子どもにやさしい空間」を設置・運営する具体的な方法
- ②子どもの心身の回復、日常生活を取り戻す手助けの方法

誰のための研修？

受講資格はありません。

地域の方々、PTA、学校教員などの学校関係者、医療福祉関係者、NPO や地域の子ども・子育て支援者や自治体職員、学生など、子ども支援に関心のある方々どなたでも参加できます。

